



学校教育目標 社会に貢献しながら、  
自立する生徒の育成  
～気づき、考え、実行する～

# やまゆり

校訓 「和の心」

指導重点

- ① 居心地がよく、やる気のある  
学級集団・学校づくり
- ② 確かな学力の育成
- ③ 豊かな心の育成
- ④ 健やかな身体の育成
- ⑤ 特別支援教育の推進
- ⑥ 生徒の良さを伸ばし、課題を解決するための  
「連携・協働」の推進



## 道志の里から 未来へ羽ばたく 卒業生たち



3月11日(水)、第79回卒業証書授与式を挙  
行しました。厳粛な中にも、温かさや優しさが満ち、小規模  
校ならではの良さがあふれる式典となりました。

私は校長として、卒業生9名全員に、卒業証書を手渡  
すことができました。改めて、この場を借りて、ご来賓  
の皆様、保護者とご家族の皆様、そして在校生の皆さん  
に、感謝申し上げます。ありがとうございました。

学校長の式辞では、この3つの願いを、卒業生に対し  
て贈りました。

- 人と人のつながりを大切にしてほしい
- しなやかな心をいつまでも育て続けてほしい
- 自分の人生の正解を自分で創ってほしい

以下、式辞の全文を掲載します。



### 式 辞

春の光が少しずつ強さを増し、道志の里にも新しい  
季節が訪れようとしています。

この佳き日に、皆さんの門出を祝う、第79回卒業証  
書授与式を迎えられたことを、心からうれしく思いま  
す。

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

本日は、道志村村長、出羽和平様をはじめ、多くのご  
来賓の皆様にご臨席を賜りました。厚く御礼申し上げ  
ます。



3年前の4月、皆さんは少し緊張した面持ちで、この  
道志中学校の門をくぐりました。

あの日からの3年間、仲間と協力し、工夫しながら取  
り組んできた数々の経験は、「人と関わることの大切さ」  
を改めて教えてくれたことと思います。

だからこそ皆さんは、互いを認め合い、誰に対しても、  
思いやりをもって、接する姿を見せてくれました。

授業に真剣に向き合う姿、汗だくになりながら、太鼓  
を叩く姿、そして、ミュージカル「ライオンキング」で  
の堂々とした演技。

これらは、道志中学校の良き伝統であり、皆さんが残  
してくれた、道志中生らしさです。

どれほど科学が進歩しても、人は一人では生きてい  
けません。幸せは、便利さの中にあるのではなく、「人  
と人との関わりの中にこそある」と思います。

学校での学びも、それ自体が完結するものではなく、  
社会の中で生かしてこそ、その価値は高まります。

これからの時代は、先行きが見えにくく、予測が難し

いと言われています。

だからこそ、困難に負けず、めげず、あきらめず、しなやかに立ち上がる心が必要です。

「しなやかさ」とは、ただ強だけの心ではありません。

折れないように力むのではなく、状況や環境に合わせて、形を変えながら、また立ち上がることのできる心のあり方です。その「しなやかさ」こそが、これからの人生で皆さんを強く支えてくれるはずです。

この3年間は、まさにその土台をつくる時間でした。

どうかこれからも、人とのつながりを大切にしながら、自分の心を、しなやかに、育て続けてください。



保護者の皆様、お子様のご卒業、誠にありがとうございます。

15年間、愛情を注ぎ、支え続けてこられたご苦勞に、心より敬意を表します。

思春期の難しさもあったことと思いますが、皆様の温かい、まなざしと支えがあったからこそ、今日の姿があります。

中学校を卒業し、新たなステージへと羽ばたいていきますが、どうかこれからも、「手は離しても、目と心は離さない」……そんな親子の絆を、ますます深めていただければと思います。



仲間や先生との別れは寂しいものです。

4月から、皆さんには、新しい生活が待っています。

卒業生の皆さん、人生の「正解」とは何でしょうか。

それは、あらかじめ、どこかに用意されているものでしょうか。

誰かが教えてくれるものでも、比べて見つかるものでもありません。

その「正解」は、皆さんがこれから出会う人とのつながりの中で、挑戦し、迷い、選び、またやり直ししながら、自分自身の手でつくり上げていくものです。うまくいく日もあれば、思いどおりにならない日もあります。その一つひとつの経験が、皆さんの人生を豊かにし、自分だけの道をつくっていく力になります。



15年前の今日、この日、東日本大震災が起きました。皆さんが生まれたその年に、多くの命が失われ、同時に、人と人が、支え合う力の大きさが示されました。

いま世界に目を向けると、戦争や紛争が絶えず、胸の痛む出来事も続いています。

平和の祭典であるオリンピックが盛り上がる一方で、どこか複雑な思いをいただくのは、私たちが「平和の尊さ」を知っているからです。

どうか皆さんは、出会う人を大切に、誰かを支え、また、支えられながら、自分の未来を切り拓いていってください。その歩みが、きっと誰かの希望となり、平和につながる力にもなっていきます。失敗を恐れず、自分の選んだ道を、自分の足で、一步一步、進んでいってください。

卒業、おめでとう。

令和8年3月11日

道志村立道志中学校  
校長 鈴木 克彦